

1,567万7,000円といたすものでございます。

それでは、事項別明細書によりご説明申し上げます。

浄化槽5ページをお開き願います。先に歳出からご説明申し上げます。1款1項2目浄化槽事業費につきまして、人事院勧告に伴う職員の人件費、3節、4節合わせて11万3,000円を減額補正をいたすものでございます。

次に、戻りまして浄化槽4ページをごらんください。歳入についてご説明申し上げます。歳出の減額に伴う財源の補正でございまして、4款1項1目一般会計繰入金につきまして11万3,000円を減額しまして、一般会計繰入金の合計を1,010万5,000円といたすものでございます。

以上が長井市浄化槽事業特別会計補正予算の概要でございます。よろしくご審査賜りますようお願い申し上げます。

次ページの第4条につきましては、条文のとおり改めるものでございます。

以下、詳細につきまして、水道3ページから実施計画によりご説明申し上げます。

先に補正の内容につきましては、主に人事院勧告に基づく給与改定に伴い、職員人件費を減額補正いたすものでございます。

3ページ、収益的収入及び支出でございますが、支出の1款1項営業費用につきましては、1目浄水及び配給水費から27万3,000円を、3目業務及び総係費から35万7,000円をそれぞれ減額いたすものでございます。

次に、4ページ、資本的収入及び支出でございますが、支出の1款1項建設改良費につきましては、1目事務費から43万1,000円を減額いたすものでございます。

以上、よろしくご審査賜りますようお願い申し上げます。

+

議案第87号 平成22年度長井市 水道事業会計補正予算第2号

+

平成22年度長井市各会計補正予算 案に関する総括質疑

○**渋谷佐輔委員長** 次に、議案第87号 平成22年度長井市水道事業会計補正予算第2号の1件について。

鈴木要一郎上下水道課長。

○**鈴木要一郎上下水道課長** 議案第87号 平成22年度長井市水道事業会計補正予算第2号の概要についてご説明申し上げます。

水道1ページをごらんください。第2条の収益的収入及び支出につきましては、支出の第1款水道事業費用から63万円を減額し6億4,134万5,000円とし、第3条、資本的収入及び支出につきましては、本文括弧書き中の条文を改めますとともに、支出の第1款資本的支出から43万1,000円を減額し5億2,111万2,000円といたすものでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 概要の説明が終わりました。これより質疑を行います。

ここで総括質疑の発言通告がありますので、順次ご指名いたします。

我妻 昇委員の総括質疑

○**渋谷佐輔委員長** 順位1番、議席番号3番、我妻 昇委員。

○**3番 我妻 昇委員** よろしくお願ひいたします。

予期せぬトップバッターということで、体調

を崩されて1番目の委員の方が休まれましたので、久しぶりのトップバッターとなりました。よろしくお願ひしたいと思います。

インターネットでこの議会中継が開始されてもう大分たつわけですが、インターネットになってからどうも傍聴者がふえたなというふうになんか私は感じております。きょうも特にたくさんの傍聴者がいらっしやって、身の引き締まる思いといいますか、議会に対する関心が高まっている、期待感が高まっているのかなというふうに思って、身を引き締めて初心を忘れずというふうにまた思ったところでございます。

市長におかれましては、特になおさら身の引き締まる思いをされてるのではないかなと思います。2期目を当選されたということで、この場でお祝いを申し上げますけれども、2期目当選おめでとうでございます。正式には15日からということですが、若干ここでいろいろ質問をさせていただきます。

さきの一般質問でも大沼議員の質問にもあったとおり、無投票だったということで、市民に広く市長の言葉、思い、公約、信念というものがなかなか伝わってないのではないかなというご指摘がありまして、まさにそのとおりだなというふうに思った次第です。私もなかなか呼んでもいただけなかったわけですが、決起大会や出陣式や事務所開きやということで全く触れる機会がありませんでした。一市民として不安に思っているのは、どういうことをこの2期目に掲げていらっしやるのか、ご自身の思いを掲げていらっしやるのかと。公約ですよね、マニフェストという言い方もするかと思いますけれども、それに触れる機会がありませんでした。私だけではなくて、さきの一般質問にあったとおり、市長みずから用意されたいろんなパンフレットや新聞やら用意されたという話でしたが、それも大分山積みに残ってるんだという率直な話をされておりましたけれども、とい

うことは、私だけではなくて多くの市民が、2期目に何をしたいのか、するのか、どんな約束をするのかということがわからずじまいでこの選挙が終わってしまったのかなと。これは、無投票というのはある意味そういう面では市民にとって不幸なことではないかなと思ったので、ここで質問をさせていただきます。

まず、2期目の公約として、「1期目にやり残したこともある」というふうな話があったわけですが、そういったことも含めて2期目の公約とは一体どういったものを掲げていらっしやるのか。私、資料ありませんのであんまり細かくだあと言われるとメモをし切れないものですから、大まかな公約で構いませんが、公約をぜひお聞かせいただきたいと思ひます。

また、もう23年度の新年度の予算編成に当たって各課からの予算要求などもあるかと思ひますけれども、今の時点で23年度の予算編成の考え方、方針について示していただければと思ひます。よろしくお願ひします。

○**渋谷佐輔委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 我妻委員のご質問にお答えいたします。

我妻委員からは、お祝いを、そして激励をいただきまして、まことにありがとうございます。

委員おっしゃいますように、残念ながら選挙がなかったと、無投票当選だったということで、これは大変名誉なことなんですが、弊害として、本来であれば選挙になれば市民の皆様には選挙公報ということで選管の方から出る内容が、これが出なかったと。もちろんこれは用意していたわけですが、また、私、政治団体2つ持っておりますが、そのうちの一つ、法定ビラ、1回分だけは用意しておりましたが、それも発行することができなかったと。なおかつ告示日になかなか街頭演説もする機会がなくて、本町で1カ所街頭をやっただけにすぎなかったということで、そういう意味では非常に私も残念だ

+

ったというふうに思っています。

政治団体の活動として、我妻委員からもありましたように、リーフレットを1万2,000部、それから「がんばろう長井新聞」というのも同じく1万2,000部用意しておりましたが、各後援会の方をお願いいたしまして、半分ぐらい、6,000部ぐらいは配布していただきましたが、特に我妻委員のお住まいの中央地区については私もなかなか力不足で後援会組織を細かくつくることができなかつたということもあって、余りお知らせできなかったというふうに思っております。我妻委員の方からもご支援いただければ多くの方にきつと配っていただけたんだろうなというふうに思い、これからはご支援をいただければ大変ありがたいというふうに思います。
(「要請がなかつた」の声あり)

○内谷重治市長 要請は何度かお願いしたつもりでございますが、文書等でもお願いいたしました。

それで、公約の内容でございますけれども、し残した部分ということはもちろんたくさんあったわけでございますが、大きな自分の目標としては、長井にお住まいの市民の皆さんに、長井に住んでよかつたと、誇りに思える、幸せを実感していただけるということを自分の目標といたしまして、これは時間がかかるわけでございますが、そのためには、まず安心安全、そして安らぎと生きがいを感じていただくということが第一であろうということから、介護、医療、福祉等の充実、また子育て、あるいは幸せ感のある教育の実践、そして生きがいを持つということからは、文化、芸術、スポーツ、そういったこと、何よりも健康、長寿をどのようにしてさらに進めていくかということを大きな目標といたしました。

幸せを実感していただけるには、まず生活基盤をしっかりとしなきゃいけないということから、雇用をしっかり確保する、あるいは創出

すると。そのためには、雇用は産業の振興なくしてあり得ませんので、産業振興。産業振興については、長井はものづくりのまち、特に製造業では大変頑張っておられる中小企業がたくさんあるわけですが、その受注拡大。なおかつ、今チャンスとして市報でも少し述べさせていただきましたが、自動車関連の産業が東北にも大きく展開しつつありますので、そういったことでの企業誘致のチャンスがあると、それらについて努力する。

あわせて観光とか交流を、雇用も含めてであります。一つの地域の活性化につなげるという意味で、まず、まちなか観光はもちろんですが、中心市街地の活性化を図ってにぎわいをつくる。人が集まるまちというものを目指すことによって、さまざまな経済、地域の活性化、雇用が生まれるんじゃないかと、そのようなことを公約として上げさせていただきました。もちろんフラワー長井線のさらなる支援によって高校生の足を守るということと、鉄道をまちづくりに生かすという考え方ということ、10の公約をさせていただきましたが、これらにつきましては、これから市報のティークレイク、自分の少しいろんな考えを述べさせていただく欄を設けております。

それと、4月からは、今度はお知らせ版の中に市のさまざまな、例えば市民課だったら「こういう事業に新たに取組もうとしてる」とか、「こういうふうになりました」というような、市長からの手紙みたいな欄も、コラムも設けたと思っています。そういったところで市報でお知らせするのとあわせて、平成23年度の施政方針の中で、詳しく公約等も含めた23年度から4年間の2期目の任期も含めたそういったところの考え方を示させていただきたいと思っています。

そして、最後になりますけれども、そのためには、こういったまちづくりを実現するためには、何といたしましても行政だけでは到底できな

いと。すなわち市民の皆様との協働、これは自助、互助、扶助という考え方で全員参加型のまちづくり、市政運営を目指していきたいと。結果として地域が再生し人口の減少に歯どめがかかると、そんなところを自分の公約として考えたところでございます。

ちょっと長くなって恐縮ですが、予算……。

(「いったんいいです」の声あり)

○内谷重治市長 そうですか、はい。

じゃあ、以上でございます。

○渋谷佐輔委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 ありがとうございます。

予算の方は、ちょっとまた別にします。

まず、公約の方からですけれども、具体的な数字とかそういうのは、例えば施政方針であるとか3月議会ですとかいろいろところで示されていくんだろうなというふうには思いますけれども、市民もいろんな期待してますし、私たちも2期目には期待をしているわけですけれども、生活基盤をつくる上での企業振興、産業振興というふうにおっしゃいました。

私もそこもすごく関心がありまして、いろんな情報を集めたり新聞等でやってるんですが、これすごくおもしろい記事がありましたので紹介したいと思いますけれども、大阪府東大阪市というところに、ものづくりのまち、もう工場がいっぱいあるんです、1万社、当時は。今はもう減って6,000社というふうな町工場ですよ、大小あるわけですが、長井市とはちょっと比べ物にはなりませんけれども、そこで取り組んでる企業振興の一つとして、教育と企業振興、産業振興を一緒にしてらっしゃるんですね。市長、前にも修学旅行を農村に呼んで、教育旅行という言い方でしたっけ、そういうふうなことが農業の面でもあるんだというふうにおっしゃってましたけども、この市はまさに企業、工業、ものづくりの教育旅行、修学旅行を積極的に受け入れてると。学生だけじゃなくて一般の方も

含めてだそうですが、年間1,300人、来年度は1,800人の予約が、学生だけですよ、そのくらい予約が入ってるということで、すごいなというふうに思いました。

ここは、行政とか企業の集まりや商工会議所や、そういった方々の協働の協議会のようなもの、組織をつくって、一般企業に例えば修学旅行生が100人も来られたら、とてもじゃないけど対応できませんよね。せいぜい二、三十人がいいところだと思います、見学したいといって受け入れたとしても。そこでそういった行政を中心とした協議会を立ち上げて、100人でも200人でも受け入れますよという体制をとってるわけです。そうすると、ものづくりの現場を親が見せたい、学校が見せたい、あるいは子供たちが見たいという要望にこたえられる組織をつくっていらっしゃいます。年間1,000人から2,000人の学生さん、あとはそれ以外の一般のお客さんも多数見えられているようだけれども、こういったことが行政に求められるのではないかなと。

「努力してください」と、「頑張ってください」といってもなかなか難しい時代であります。いかに行政と市民と工業、産業、企業振興を一緒にするのかということがこれからのキーポイントかなと思っております。ぜひそういった面も含めて企業振興にご努力いただきたいと思うのですが、ご意見をお聞かせください。

○渋谷佐輔委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

我妻委員おっしゃいますように、東大阪は全国でも有数のものづくりのまちとして有名でございます。長井市が今交流しようとしてる大田区、あるいは長井へ企業立地をいただいております墨田区とか、あるいは川崎の方も非常にそういった意味ではものづくりの盛んなまちでございますけれども、その中で、産業観光というようなことで工場を、教育旅行といいますか

ね、見ること自体が一つの観光として、特に川崎、大田区が非常に盛んだそうでございます。そういった意味では、長井も東北では私ども長井と岩手県の北上が中小企業の集積がある地域として有名でありますけども、私どももそういった可能性があるだろうというふうに思っています。

なお、昨年から産業振興コーディネーターという愛知県在住の方、これはトヨタ系の会社に勤めておられた方をコーディネーターとして2年間やっていただいておりますが、それが例えば11月の中旬に長井で開催いたしました、これは長井出身の豊田縫製の元副社長がいらっしゃったということもありまして、商談会等々をさせていただいております。市が単独でももちろんこれはできないわけでありまして、それには地元の長井機械工業協同組合であったり、あるいはメカトロ協同組合さんであったり、そういったところと商工会議所、連携しながらやっておりまして、こういったことをさらに充実していきたいなというふうに考えてるところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 3番、我妻 昇委員。

○**3番 我妻 昇委員** 人材育成の最たるものは教育だと思うんですが、修学旅行生は外から受け入れるわけですけども、これ近隣の小・中・高校生なんかも積極的に受け入れることによって、長井工業のレベルアップにもつながるのではないかなというふうに思っております。今回の県の高校再編の問題でクローズアップされてしまいましたけども、長井工業が一つの科を減らすという方針、非常に悲しいなというふうに思うんですけども、今後、ものづくりのまちとして、工業界と長井工業高校が非常に全国に注目される取り組みをしてる、さらにレベルアップする方法として、こういったことをすることによって、優秀な人材が長井に行ってみたいと、長井工業に入学して長井のものづくりに参

加したいというような、そういった気持ちを持っていただけるような取り組みをすることによってさまざまな面でいい効果が生まれるのではないかなと思っておりますので、ぜひ教育も含めてこのものづくりを考えていただきたいなと思います。

私は、昨年でしたか、一昨年でしたか、「長井の子は長井で育てる教育を」というふうに提言させていただきました。それは吉田製作所の社長さんなんかを中心となった工業界の方々、一生懸命されてるわけですけども、長井だからできる教育というのがあると思います。歴史や文化や風土はもちろんですけれども、今のものづくりのことでもそうです、観光でもいいです。長井というのはどうして今私たちが住んでいられるのか、どういう方々の礎のもとに成り立っているのかという面からも、長井でないとできない教育というものをすることによって人材を育てていく。優秀な人材が東京や大阪や仙台に行っただとしても、将来長井に戻ってきたいなと思っただけのような、思わせるような教育を、長井の子は長井で育てるべきだという意味で提言させていただきました。

ぜひそれらも含めて、教育とものづくり、あるいは観光、市長も観光というふうなことです、観光も含めて、まちづくりも含めて教育が大事なんだなと思います。そのことについても、もう一度市長のお考えをお願いします。

○**渋谷佐輔委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 貴重なご提言ありがとうございます。

我妻委員からもありましたように、やっぱり長井だからこそできる教育と、また、いろんな長井の先人の努力されたことを、そして今があるということをお子たちにしっかり教えることは重要だと思います。観光でも、長井小学校の方でボランティアガイドをしていただいたりとかそういった試みを、市の方からお願いしなく

とも、学校側、あるいは北中の例にあるように、子供たちみずからが長井をPRしなきゃいけないんだということで修学旅行でやっていただいたように、大変ありがたいことだと思ってます。

長井の心の教育については、また違った観点から今一生懸命取り組んでいただいておりますが、それにただいま我妻委員からあったようなこともぜひ教育委員会の方からご検討いただいて、それらについても、少し幅を広げて人材育成するという視野から取り組んでいただけるようお願いしてまいりたいというふうに思います。ありがとうございました。

○**渋谷佐輔委員長** 3番、我妻 昇委員。

○**3番 我妻 昇委員** 観光にちょっと触れたいと思うんです。長井線の話を出されたわけですが、今、野村社長が、東北一帯を一つの観光地として、ローカル線もその中に血管のように張りめぐらされているということの一つの図にまとめて、いろんなところにプレゼンしていらっしゃいます。東北を一つと考えると観光客をどんどん呼ぼうという動き、非常に広い視野ですごい取り組みだなと思っておりますが、そういう少し物を上から見て、長井市やこの西置賜だけの観光ではなくて、もっと大きな目線で見ることによって観光客や、私たちもそうでしょう、やっぱり意識が変わると思うのでしょうか、魅力がアップすると思います。長井線を利用したまちづくりや観光というものに、ぜひ一生懸命取り組んでいただきたいなと思います。

そのことはご存じだったでしょうか、野村社長の今取り組んでらっしゃること。そういった面で、行政でも何か支援する、運営を直接支援するのも必要でしょうけれども、そういった将来に投資になるようなことでの支援というものも必要だと思います。ご意見をお願いいたします。

○**渋谷佐輔委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 我妻委員のおっしゃったような

視点というのは、観光で特に必要だと思いますし、フラワー長井線をももちろん地域の住民の方にもご利用いただくというのがまず大前提なんですけれども、それだけでは高校生がどんどん減ってまいりますので恐らく赤字を減らすのは容易ではないということから、少しでも観光客に乗っていただくという視点から、広い視野での連携、観光連携といいますかね、そういった視点からの鉄道のあり方ということも頑張っていってほしいなというふうに見ております。

また、この間も朝日新聞に載っておりました南陽高校の生徒の思いであったり、あるいは宮内の駅のウサギの駅長ですね、それなんかも年末年始のテレビ等での放映なども決まっておりますし、いろんなことが実を結んできたなと思ってます。

それと同時に長井市としては、フラワー長井線については、これ長井だけ観光客においてほしいということはなかなか難しいんでしょうけれども、少なくともフラワー長井線、山形鉄道に求めているものは、鉄道は乗ってもらいましょうけれども、やはり我々沿線としてはいろんな意味で支えなきゃいけないと。そのうち補助金もあるわけですね。そういった意味から、できれば沿線でおりにいただく、そしてまちなか観光であったりお金をいろいろ使っていていただいて地域を潤していただくような、そんな企画も山形鉄道に実は期待しております。そういった意味で、7月から山形鉄道の専務を観光振興コーディネーターをお願いしております。それが来年の春の、あるいは夏の、その間の観光客のいわゆる着地型の商品の開発を含めてお願いして期待してるところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 3番、我妻 昇委員。

○**3番 我妻 昇委員** 市政全般にわたっていろいろ議論してもなかなか時間も足りなくなりますので、公約の中には示されてはおりませんが、市役所職員の組織体制というんでしょ

うか、職員体制、あるいは採用計画も含めてですが、そういったところもある程度示さないといけない時期なのではないかなと思うわけですが、毎年のように組織を少しずつ変えたり戻したり、いろんなことを今までしてこられました。今後はこの組織体制というものをどのようにお考えになるのか、また、職員の採用というものも含めて、今の時点での考え方をお聞かせください。

○**渋谷佐輔委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 市役所の組織とか、あるいは職員自体の育成ということが、これからの長井市の行政運営には極めて重要だというふうに思っております。

委員もご承知のとおり、今の職員の構成については、423名から、過去10年間で大体292名、293名まで減らしてきたということは、すなわち退職される職員に対して新規採用をずっと控えてきたと。どういう職員構造になってるかという逆ピラミッドに近い構造になっておまして、そういった意味では、将来の市役所運営を考えた場合、非常に憂慮すべき事態だなというふうに思っています。ですから、それにつれて組織もある程度、その時代時代、あるいは市民の皆様の要求や要請にこたえられる組織にしなきゃいけないと思っておりますが、しかし、なかなか、やはり役所自体でもう少し議会の皆様にも丁寧な説明をしながらご理解をいただくようにしなきゃいけないと思っておりますが、その点が一つ課題だなと。

あと、組織についてももう少し、今までみたいにまとめてまとめてまとめてというふうにして、一見はたから見ると効率的なように見えますが、しかし、必ずしも市役所の場合はまとめることが効率的だということでもない。その辺なんかもよく考えた組織にしていかなきゃいけないと思っております。

なお、職員採用については、今後、特に七、

八年で大量退職の年がたくさんあります。特に平成26年になりますと約20名ぐらいの職員が退職いたしますので、そうしますと、職員を育てる、一人前にするには最低でも5年から7年かかるというふうに見えますので、前倒しで毎年10名以上ずつ採用していかないと、今後少なくとも五、六年は組織がもたないという危機感を持っていますし、あと、職員の意識を変える意味でも職員のモチベーションが上がるような研修プログラムをつくらなきゃいけないと、これを来年度から実施していきたいなというふうに思っています、今、新3S運動していますが、まだまだやっぱり実効あるものにするには意識をもっともっと変えなきゃいけないというふうに思っています。

○**渋谷佐輔委員長** 3番、我妻 昇委員。

○**3番 我妻 昇委員** 予算編成に移りますけれども、大分、市民からいただく、企業からいただく税金がここ数年下がっております。決算はまだまだ先なわけですが、ここ2年間で多分4億円ぐらいの税収が下がるんだろうと思います。

ただ、その分、国の支援、支援というか、国のお金によりまして、依存度が高くなってるわけですけども、こうやって滞りなく市は運営されるわけですけども、ぜひこの23年度の予算編成の考え方について、今の時点で示されることを示していただきたい。

前に資料をちょっと拝見したときは、「さらなる事務事業の選択と集中により財源の効率的かつ効果的な配分を行い、歳出の抑制を図るものとする」という一文があったわけですが、そのさらなる事務事業の選択と集中というところが、もしも具体的にこういったところを考えてるんだというものがあれば、この時点でお聞かせ願えれば幸いです。

また、重点施策などもあるようでございますので、そんなに細かくではなくて、考え方、方針というところで、細かい点は、先ほどの事務

事業の選択と集中というところ、もしも具体例があればお示しいただきたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

23年度の予算編成の方針といたしましては、23年度もマイナスシーリングはしないということがまず大前提であります。それは、引き続き財政は厳しいんですが、いつまでもマイナス思考ではだめだと。今、長井市にとって一番の危機は何かというと、人口減少であります。これはどこの市町村も同じなんでしょうけども、特に長井市としては、来年度、国の方でも示されておりますが、地方交付税の特別枠の1兆5,000億円がどうやらなくなりそうだと。それと国勢調査、10月1日行いましたが、平成17年、前は3万900人ちょっとだったんですが、そこからこの5年間でやっぱり1,500名から2,000名近く減ると。そうしますと、その2つの要素で地方交付税が少なくとも3億円ぐらい減るだろうと。ことしはおかげさまで42億円ぐらいです。3億円減りますと39億円。この39億円というのは、長井市が非常に苦勞した平成20年とか19年とか、そのレベルにまで下がるわけですね。

一方で、委員からご指摘あったように、市民税が特に伸びないというか、マイナスです。法人市民税については少しプラスで、これは明るい兆しがあるんですが、それと固定資産税がとにかくどんどんどんどん減ってるという極めて厳しいと。まだ今のところは人口のところは少し踏ん張ってるわけですね。これがデフレスパイラルのように人口減少がどんどんどんどん進んでくる時期が恐らく今後5年10年後ぐらいに来ますので、その前にいかに踏ん張れるかだという意味で、人口3万人都市の復活のためのいろんな施策、22年度も1億8,000万円ほど総計で予算化しておりますが、それらについて引き続きメインで市民の皆様からもいろいろ意見いただいたり、あと職員、職場からいろんなボト

ムアップで上げてほしいというようなことを今特に検討しているところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 3番、我妻 昇委員。

○**3番 我妻 昇委員** 重点施策は3万人復活がメインになるということ、恐らく2億円近いことを考えていらっしゃるんでしょうかね。そこの中でいろいろ子育てや地域経済、雇用創出、人材育成というふうにある程度の項目を上げてらっしゃいますけれども、ぜひ実になる、本当にすぐ効果の出るような施策を単年度においてはぜひどんどん進めていただきたいなど。長期的に見る事業もあるかと思っておりますけれども、ぜひそういう効果のある事業をどんどん進めていただきたいなど。せっかく今、交付金や臨財債や多額のお金を、いただいているというんでしょうか、ありますので、そういったところを即効性のあるものにぜひどんどん使っていただきたいというふうに思っているところです。

昨年、私、バリアフリーマップをつくっていただきたいということで、車いすの方や松葉づえやいろんな障害を持つての方が普通の生活する上で、どこにどういう施設があるのかわからないと、あの喫茶店に入っていいものかどうか、あの飲食店に行ってもいいものかどうか不安でならないと。本当はみんなと同じように買い物したり食べたり飲んだりしたいんだというところで、バリアフリーマップ、福祉マップとも言うんでしょうか、つくっていただきたいということで、ぜひ取り組みますということで福祉事務所中心にという話でしたけれども、そこも、もう来年度ぜひ実現させていただきたいと。細かい話になりましたけれども、その点いかがでしょうか。

○**渋谷佐輔委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 我妻委員がおっしゃるバリアフリーマップといいますか、これは私も非常に大切なことだというふうに思っております。福祉事務所の方では今作成中ということだと思いま

+

すので、もうしばらくお待ちいただきたいと思
います。

子育て支援ガイドブックというものを地区長
さんをお願いいたしまして配らせていただきま
したが、24年になるかと思いますが、長寿ある
いは健康長寿支援ガイドブックみたいなものを
つくりたい。その中にもやはりバリアフリー、
ちょっと長井の場合はおくれております。これ
はやはり昭和40年代、50年代に主に公共整備が
されたということで、その当時はバリアフリー
の思想がまだ定着してなかったと。これからの
施設あるいは道路、歩道の整備についてはしっ
かりとしたビジョンを持ってやっていきたいと
思っています。

あと、委員からあった即効性のあるいろんな
施策、予算の使い方ということなのですが、23
年度は、特に長井が今までできなかった住宅の
改築あるいはリフォーム、またはバリアフリー
のためのさまざまな改築、リフォームですね、
そういったことへの地元の建設業さんを使った
場合の支援策、また、地材地住といえますか、
地元の木材等を使った場合の県の支援制度あり
ますけども、それに市でもプラスするとか、あ
るいは市の方で土地を、例えば宅造についてみ
ずから取り組んだり、あるいは民間事業の宅造
事業についての支援策、こういったことも23年
度にやりながら、そういったことで少しでも人
が定着するように、あるいは経済が活性化する
ように。あとは街路事業によって、これは公共
事業はもちろんなのですが、民間のいろんな需
要がふえる大きなチャンスだと思っていますので、
こういったところは即効性がある部分だと思っ
ておりまして、こういったことを中心に考えて
いきたいと思っています。

○**渋谷佐輔委員長** 3番、我妻 昇委員。

○**3番 我妻 昇委員** 時間もありませんので、
いろいろ議論したいところはあるんですが、ま
た3月議会などで具体的にできるかと思いま

婚活支援事業なんですけれども、初年度です
よね、今年度初めて取り組んだと思うんです
が、道半ばなんですけれども、今の時点で、取
組んだ状況、成果はまずそう簡単には上がら
ない、何年間も取り組まなくてはいけない事
業だと思いますけれども、成果は難しいにしろ、
取り組みの状況についてぜひお聞かせ願いま
す。市民課長、お願いします。

○**渋谷佐輔委員長** 宇津木正紀市民課長。

○**宇津木正紀市民課長** 私の方から、本年度の婚
活事業についてご説明申し上げます。

まず、4月30日に副市長を委員長とします
「長井市婚活サポート委員会」を、17名のサポ
ーターとともに設立いたしました。事務局につ
いては市民相談センターになります。サポー
ターの委嘱に当たっては、3月15日号の市報に公
募の記事を掲載したところでもございました。結
果は1名の公募者がありましたが、そのほかの
サポーターについては、業種とか地域のバラン
スなどを加味しまして市の方からお願いしたと
ころでもございました。

事業計画については、1つ目としては、出会
いの場の創出に向けた各種イベントの開催、2
つ目としては、若者が結婚に対して前向きにと
らえる意識啓発と、長井市全体で結婚を支援す
る機運づくりに取り組むということの情報交換
会などでございます。

イベントにつきましては3つ計画したのです
が、まず1つ目は、6月にはジュンブライド
を意識しましてフラワー長井線を利用したブラ
イダル列車を企画いたしましたところですが、募
集に対しまして残念ながら応募者がなくて見送
ったところでもございます。2つ目は、7月25日
に白鷹町出身の文屋小百合さんのコンサートを鑑
賞しまして、そのコンサート終了後、交流会を
行ったところでもございます。3つ目としては、
10月9日に「NAGAIときめかナイト」とい
うパーティーを開催しまして、男女68人が会場

に集ったところでございます。

これまでの事業としては、そのようなことをしてございます。

○**渋谷佐輔委員長** 3番、我妻 昇委員。

○**3番 我妻 昇委員** 見送った事業もあるけれども、コンサートや出会いの場の提供もしたということで、ちなみに予算を教えていただきたいのですが、コンサートとときめかナイトではどのくらいの予算を費やしての事業だったでしょうか。

○**渋谷佐輔委員長** 宇津木正紀市民課長。

○**宇津木正紀市民課長** ときめかナイトについては、約100万円ほどの予算を使って行ったところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 3番、我妻 昇委員。

○**3番 我妻 昇委員** コンサートはほとんど使っていないということによろしいですね。

私からは、ちょっと厳しい意見が聞こえております。婚活支援事業は、そのものはいいことであって数年続けていただきたいなど。だんだんとレベルアップする事業だと思いますので、いろんな先進事例なども研究していらっしゃるでしょうからいいんですが、ちょっと厳しい意見を私に寄せてきた方が何人かいらっしゃいますのでちょっと紹介したいんですが、ときめかナイトという出会いの場ですね、若い人たちの出会いの場を提供したんですけれども、100万円ですよ、100万円を使って山形の業者さんに企画をしていただいて、グランパリスでしたでしょうか、で行ったわけですが、どうも参加者から大変不評であったというふうに聞いております。女性の方なんか、山形か米沢かちょっと存じ上げませんが遠いところから来られた女性の方が、「もう参加したくない」という方もいらっしゃったということで、そのお友達の方から聞いたわけですが、どうも、運営の仕方というんでしょうか、どうすると今の若い人たちが盛り上がるのかとか、昔は自分

たちが勝手にしたわけですがけれども、今はサポートしてあげないといけないのかなど。もう大変な時代かもしれませんが、地元でそういう婚活事業を頑張ってもらってる方々もいらっしゃいます。私ももう6年、7年ぐらい前から商工会議所の青年部の方と一緒に活動しておりますけれども、ノウハウをずっと培ってる団体もありますので、そういった企画会社もそれはそれで正しいのかもしれませんが、ノウハウを持つての方々が地元にいらっしゃるのに外に仕事を出してしまうというのはいかなものかなというふうに思うのと、参加者が大分不満があったということは問題ではないかなと思います、その辺のことは市民課長はご存じでしょうか。

○**渋谷佐輔委員長** 宇津木正紀市民課長。

○**宇津木正紀市民課長** 実際にときめかナイトを実施しまして、その反省の中にも、やはり我妻委員おっしゃるようなことが指摘されておりました。自己紹介を冒頭に持ってきたところ、女性の方、先に自己紹介していただいたんですが、それが嫌がられていて不評だったというふうな報告を受けております。

あとノウハウの問題ですが、やはり婚活サポーターも初めての年で、そういうノウハウも民間の方から教えていただきながらサポーターにもノウハウを持っていただきたいということで行ったわけで、最初の年ということで我妻委員おっしゃるように行き届かないところはあったかと思いますが、やはりやったということに、これ以上に意義があるのかなというふうにとらえているところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 3番、我妻 昇委員。

○**3番 我妻 昇委員** すべてが成功するとはいきせんので、こういったことも一つの課題、勉強になったわけですから、ぜひ次年度以降につなげていただきたいんですが、例えば南陽市なんかは、「自分磨き」と言ってたかと思いますが、けれども、男性の方の自分磨きを一生懸命促し

+

てるんですよね。女性の方は、もう雑誌を見たり、友達同士の会話であったり、日夜自分磨きの努力をなさっていると。どうしても男は特に、特にと言うと語弊ありますので、なかなか自分磨きをしなくなってくるんだと思います、私ももちろんですけども。なかなかほかの仕事であったり友達同士のつき合いであったり、自分磨きを怠ってしまうというのがどうしても、田舎に住んでると特にかもしれません。そういったところに着目して、南陽市なんかは1年間かけて、どうやって見た目や内面やすべての面で自分を磨いていくのかということをサポートしていく、男性に特にサポートして出会いの場も提供し、実績を上げようというふうにしているわけですけども、ぜひそういったことも研究なされて、あるいは地元の方々でいろんなノウハウ持ってる方との連携もとりながら、ぜひ次年度以降の取り組みをしていただきたいと思えます。

+

また、市民相談センターで担当をなされてるわけですけども、どうもそこだけで考えると広がりがないかなと思います。商工観光課であったり、あとは商工会議所ですとか、いろんなさまざまな団体があるわけですが、もうちょっと連携を深めてはいかがかなと思えます。

その点について、次年度以降の考え方、これ市長の方がよろしいでしょうかね、担当課の方がよろしいですかね。じゃあ、市長にぜひ来年度以降の考え方についてお答えをお願いします。

○**渋谷佐輔委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 貴重なご意見いろいろありがとうございます。

今年度から始めたわけですが、副市長を委員長として、この4月30日に長井市婚活サポート委員会というものを17名の市民の皆さんにお願いして発足したわけですが、その中にはいろんな団体の方も入っていただいております。当

然、商工会議所青年部からも入っていただいたりしておりますが、委員がご指摘のように、もう少し、特に商工会議所の青年部は独自にいろんな取り組みをなさってノウハウ持ってますし、最近も非常に結婚の成約率が高いということでもありますので、そういった団体ともいろいろ連携しながら、逆にある部分お任せして、婚活事業の中でですね、多分、経済的というか、予算的な部分もあるのではないかなと思いますので、そういったところを我々が婚活サポート委員の方なんかと包括しながらやっていくやり方も考えていきたいと思っておりますし、ぜひ少し長い目で見ていただいて、いろいろご指導いただきながらノウハウを蓄積して、来年はぜひいろんなカップルが成立するように努力したいと思っておりますので、ご指導をお願いしたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 3番、我妻 昇委員。

○**3番 我妻 昇委員** サポート委員会の中に入ってる方にもお聞きしたんですが、「もう最初からこういう事業をするというふうに決まっていた」というふうにおっしゃってました。「なかなか意見申し上げても、もう数字が決まっていたようだ」という、その方のおっしゃるにはですけども。そういったことも含めて、次年度以降はもうちょっと多角的にというんですか、多面的に見て協力体制をとってやっていただきたいなど、ぜひ成功させていただきたいと思っております。

最後に、アヤメの管理と育成についてに移りますけれども、現在の管理、育成に問題はないかということで、私も100周年事業はもちろん、その前からもずっとアヤメの事業には手伝わせていただいているんですが、特に花の育成です、花の管理ということですが、きょうは質問したいんですが、一時期、花があんまり迫力がないとかだめになったなんていう評価もあった時代もありましたけども、最近はまだ見事な花を咲かせているわけですが、でも作業員の方々の苦勞

+

をいろいろかいま見ますと本当に大変な思いされてるなど、これはどこか問題点ないのかなというふうに思っていました。

ちょっと話を聞く機会がありまして、草を取る除草の作業ですとかいろんな株分け作業はボランティアの方にも手伝っていただいているものの、いろんな作業、年間通してさまざまな作業があるわけですけれども、実際人が足りないんだという話を聞いております。

2番目には、他の観光事業に振り回されることないよというふうなことでございますけれども、どうしても実際にはほかの事業があるわけで、桜の季節には桜の事業にどうしても作業員の方も動員しますし、黒獅子やツツジもそうです、水まつりもそうです。「どうしてもアヤメに専念できない部分がある。この時期にこの作業をしておけばいいんだけど、どうしても二、三週間後回しにしてしまうんだ。これが現状だ」という話をお聞きしました。

商工観光課長には、現在の管理、育成にどのような問題があると感じられてるのかお聞かせください。

○**渋谷佐輔委員長** 齋藤理喜夫商工観光課長。

○**齋藤理喜夫商工観光課長** お答え申し上げます。

アヤメの育成、管理につきましては、今、委員の方からお話があったように、平成15年から専門の通年の雇用の職員を採用し、継続して管理あるいは研究をするというふうな体制をとってございます。それから作業員全体の熱意というふうなものもあって、技術的な部分につきましては安定、あるいは一段高いレベル、状況になってるかなというふうに考えてございます。

ただ、気候条件あるいは害虫等の発生といったその年その年の条件の変更によってそれぞれのいろんな課題が出てくるというふうな状況があります。それに対応していかなければならないというふうなことがこれまでの状況だろうというふうに思います。

ことしの管理での問題点というのは、特に4月、5月、それから祭り期間もそうだったんですが、特に除草作業のおくれといいますか、草がたくさん生えたというふうな状況があります。この原因につきましては、私の方からも公園内に黒マルチをしない方がいいだろうというふうなお話をしたというふうな点、それからもう1点が、入れかえをした土の質が必ずしも十分でなかったかと、適当でなかったかというふうなことで、それまで見られなかった草が大量に発生したというふうな状況がございます。

ハード的な部分でいけば、草刈り機等の備品の老朽化といいますか、古くなってるというふうな状況もございますが、全体としてのことしの問題点というのはそのような形になるかなというふうに思います。

ただ、人的な部分で考えますと、緊急雇用で採用した職員3名がおります。それから、そのほかのこれまでの何年間かの経験を持つ職員9名でございます。全体の量としては、それ

+

に加えて臨時的な作業員を張りつけをするというふうな形では考えております。ただ、例えば平成十五、六年前あたりからの変化といいますと、例えばさくら回廊、これにつきましては、おおむねこの時期からかなりお客様がおいでになるような状況が出てくると、それに対応した誘導員の体制等をとらなければならない。この時期に逆にあやめ公園の下準備の作業にかかる時間を十分に割けないというふうな状況はあろうかなというふうに思います。

○**渋谷佐輔委員長** 3番、我妻 昇委員。

○**3番 我妻 昇委員** 時間もありませんので率直にお聞きいたしますけれども、いろんな作業があります。除草作業も大きな要因だということで手間がとられるわけですけれども、やはりここはアヤメのことだけ専門に管理、育成するスタッフというものを2名とか3名とか置くことが必要ではないかなと。レベルは高くなった、

でも本当はもっといい花をつくることのできるんだと、ただ、できないのが現状なんだというそのつらさという、不本意ながらそうなんだということを聞きましたので、桜やツツジや黒獅子や水まつりに振り回されることなく、そちらにはそちらのスタッフを置いて、アヤメはやはり市の象徴でございますので、アヤメの花が元気がないということのないように、専門にアヤメの花の育成に携われるスタッフ、作業員というものを置くべきではないかなと思います、市長のお考えをお聞かせください。

○**渋谷佐輔委員長** 内容重治市長。

○**内容重治市長** 今までは、残念ながら本当に厳しい財政状況でしたので十分なそういった作業員の手当ができなかったと、総体的な人数も少ないというふうに思ってます、予算ですね。ですから、そういったところを今後ぜひ検討しなきゃいけないと思います。

あともう1点は、観光協会と市の商工観光課の役割分担を明確にして取り組むということも大切だと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 3番、我妻 昇委員。

○**3番 我妻 昇委員** ありがとうございます。以上で質問を終わります。

蒲生吉夫委員の総括質疑

○**渋谷佐輔委員長** 次に、順位2番、議席番号17番、蒲生吉夫委員。

○**17番 蒲生吉夫委員** 通告しております1件について、市長、福祉事務所長にご質問を申し上げたいと思います。

きょう私は自分の質問の資料として、22年度の「長井のふくし」と介護保険制度の見直しに関する意見、社会保障審議会介護保険部会、11月30日に意見として出したものを持ってきてお

ります。

最初に、介護保険制度継続のため、自己負担増額でなく国庫負担割合の充実をというテーマにした理由があります。こういう報告書が部会の方から出されるということは、このことは、来年の通常国会でこの意見にほとんど沿った形で法案が作られて2012年度から実施されていく、こういう段取りになるんだというふうに考えられます。

介護保険制度について、2000年から始まったわけですが、その前年度の1999年に介護保険制度が創設される前に、山形県介護保険制度を考える会として、「本来介護は保険制度でなく全額公費で賄うべきと考えるが、保険制度で行うと決定した以上、極力住民負担の軽減をすべき」などと盛り込んだ要望書を、山形県と県内の全市町村に私たちのつくったグループの中で提出をしてきました。本来はやっぱり公的な負担でべきなのだというふうに思いますけれども、しかし、2000年の4月に発足した介護保険制度は公費負担5割という形で発足したわけですが、10年を経過したわけですね。発足から3年ごとの見直しをするという約束で最初からやっていますので、少しずつ見直しをして、所得階層の段階と率、保険料など部分的な見直しを中心でありましたけれども、見直しをしてきたわけですね。

今回この11月30日に社会保障審議会介護保険部会から出されました介護保険制度の見直しに関する意見は、少しの手直しでなくて大改革だというふうな認識を私は持っております。それに基づいて介護保険制度を大改革していこうとしているんですね。10年ですから大幅に見直さなきゃいけないということはわかりますが、そこで、福祉事務所長にお聞かせ願いたいと思います。

この「長井のふくし」の中の33ページに、高齢者の人口についてのシミュレーションしたや